



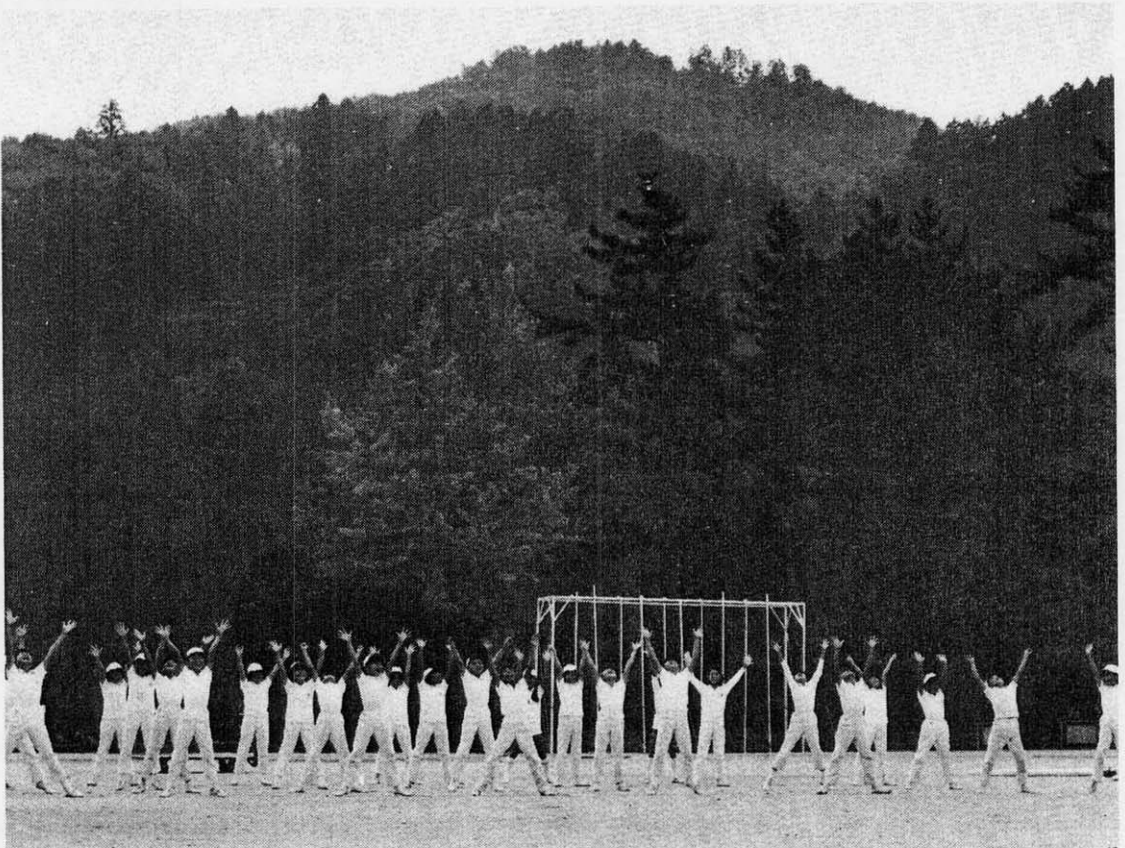
晩秋の澄みきつた冷気の中
秀峰 村積山を背に
エイ ヤー と
二〇六名のかけ声が
朝の空にひびく

今年の冬も 寒さに負けず
運動場をとびはねるだろう

昭和53年12月1日

編集・発行

岡崎市教育委員会



(「エイ、ヤー」206名のかけ声—奥殿小)

— 教育随想 —

アスペルギルスハツチヨウ

早川久右エ門

わたしどもの味噌が宮内庁御用達になつてゐることについて、その経緯を聞かせてほしいとおっしゃる方が多いので、最初にそのことをお話ししましょう。

御下命をお受けしたのは明治二十五年のことです。これには、岡崎市が生んだ世界的な学者、志賀重昂先生のお力が強く働いております。先生は、八丁味噌の栄養価と美味とを賞でられると同時に郷里の特産を汎めたいとお考えになつて御推薦くださったわけでありました。

以来、戦前は皇室から皇族に至るまで御使用いただいております。戦後は、天皇家だけの御注文をお受け致しておりますので、量はそれ程ではありません。

陛下は、生味噌が一番好きで、その次に焼味噌を好まれるようかかつております。作る側から申しますと、誠に理にかなつた食され方でありました。味噌も魚の食べ方と同じで、ナマ―焼く―煮るの

順にその味わいが劣つていくものでありますから、生味噌は丁度とりたての魚で造つた刺身というところでしよう。

もちろん、焼味噌の香ばしい味というものも捨て難いものです。と同時に焼味噌は保存食として秀れております。このことは、家康公の戦さのお供として早くから使われていることからおわかりいただけると思います。握り飯に焼味噌は、「家康弁当」の名で今も残っております。

八丁味噌が長期の保存に耐えるのは、いくつかの条件がありますが、それが八丁味噌を独特の存在にさせているのであります。

その一つはやはり原料である大豆の吟味であります。現在は内地産と米国産で残念ながら中国産はまだ入っていません。各国の良質豆を常に適当にミックスする事で毎年均一良質な製品が得られます。二つめは仕込む時の水の量です。(塩の

量は大豆の量に大体比例していますが、味噌の硬さは豆麴の含有水及び仕込水が多ければ軟く、少なければ硬い味噌になります。一旦仕込んでしまえば以後の増減は絶対不可能ですので三年後出荷の通常に一室の品質を出すのが杜氏のコツです。

三つめは、酵母菌です。味噌を熟成させるために使う麹菌は市販されている普通のものであります。しかし、八丁味噌特有の風味や香りを造り出すのは、学名をアスペルギルスハツチヨウと名づけておられる酵母菌であります。この酵母菌は、わたしどもの手によつて添加するわけではございません。不思議なことに室台や仕込桶の中に住みついているのであります。わたしどもの知らないところで創業以来八丁味噌の伝統を守つてきてくれたものがあるということ、神秘的なことのように思えます。

もう一つの条件は、仕込んでから三年を経たものでないと市場に出さないとということでもあります。色つや及び風味をつけるためです。インスタントや促成が幅をきかせている現代であります、一時の衝動や思いつきで数百年続いてきたやり方を変えることによつて失うものの大きさを考えると、この三年というサイクルはどうしても崩せないと思うのであります。

まあ、こういう頑固な考えを持った人間が一人くらい残つていてもいいのじやないかと思つております。



心のこもつた千羽鶴

太田恭子

左腕三本骨折、五キロのおもりをつるした哲夫君の痛々しい姿、そして、病室の壁につるされた心暖まる千羽の鶴。

ガヤガヤ、ゴソゴソ……職員朝礼をすませて教室へ向かうほんのわずかな時間だが、その日は、室内が特にざわついていた。

「だまれー！」
瞬間発した言葉がそれだった。自分が、日頃、優しい女の先生でとおつてゐるところが、翌朝のこと、机上を見てはつとさせられたのである。

「てつおくん、はやくよくなつてね」「みんながまつてるよ。てつおくん」つ、つる／＼千羽鶴だったのか……。昨日のざわつきが、その相談だったとは。うまく折れ合わない鶴の羽先やそのひとつひとつにつり下げられたたんぎくを見て、妙に熱くなるのはどうしたことだろう。何もできないと思つてたのに……。あ

冬の訪問者たち

明保俊通

秋も深くなると、矢作川やその周辺の田園地帯は岡崎市の鳥ハクセキレイをはじめ、多くの冬鳥たちでにぎやかくなる。その冬鳥たちの中で主に水田や湿地で比較的目立たない生活をす

るタゲリとタシギについて紹介しよう。タゲリは、矢作川やその周辺の水田ではかなり珍しい鳥で、注意深く観察しないとなかなか見られない。私の観察では昭和五十二年一月と十二月に北野町の水田、昭和五十二年二月に矢作川の河原で確認したのみである。

タゲリは、チドリ科の鳥のなかではきわめて大きく、ケリよりやや小さいが、姿はよく似ている。後頭部に黒色で長い



ふるさとの自然 タシギ

冠毛があり、背や腰は金属緑黒色で、光線の具合では赤紫色に輝く美しい色をしている。飛びと白黒の模様はつきりと

し、翼の先はまるく、水田でえさを取っている時とは別の鳥かと思うこともある。日本には十月下旬頃、ユーラシア大陸で繁殖したものが冬鳥として渡来する。

矢作川や周辺の水田で見られるようになるのは、十二月になってからのようである。水田でも、湿地でなければ生活できないようでも、数羽の群れでえさをあさっている。たいへん警戒心の強い鳥で、見通しのきく開けた水田を好み、人が近づくとすぐ舞い上がってしまう、観察するのがなかなか難しい。

飛び方はいかにも軽そうにゆっくりと飛ぶ。飛び立つ時「ミュート」か「ニャオ」と猫のように鳴き、あまり遠くへは行かず付近の水田へ降りる。

近年タゲリの好む環境は減りつつあり、かなり山地まで分布を広げてきたようだ。

タシギは、岡崎市の水田、湿地帯などに普通で、単独または数羽の群れで生活している。矢作川の河原にて生活することは珍しく、夕方まれに見かけることがある程度である。

タシギは日本よりも北で繁殖し、秋期は南へ移動する。岡崎市では初秋から翌春まで見ることができ、大きさはツグミくらい、背は黒褐色と黒のまだらで、くちばしは長い。その長いくちばしを垂直に泥の中にさしこんで動物質のえさを

さがす。

昼間は秋の取り入れを終った水田や草かげにうずくまっている。体の色が周囲と同じ保護色なので、注意深く観察しないとなかなか発見できない。また保護色によほど自信があるのか、相当近づいてもすぐ飛び立つ場合はまれで、体を低くして静止し、危険を感じてから飛び立つ

場合が多い。よく、田の畦道を歩いている、脚元から飛び立たれてびっくりする。飛び立つ時、しわがれ声で「ジエツ、ジエツ」と鳴き、空高く舞い上って、もといた場所を中心にして円を描くように飛び、遠くへ行ってしまうが、しばらくすると、もとの場所にもどってくる。

タゲリもタシギも、決して市内にまれな鳥ではない。ちょっと注意すれば、いつでもお目にかかれる鳥であるのに、ほとんど知られていないのはなぜだろう。

自然保護は、まず、自然を知ることから始まるのではないだろうか。(矢作中)



タゲリ

のおちびさんたちが、いつの間にかこんなことを……。

昨日の子どもに對する申し訳なきまゝにして、今日の感激は言葉では尽くせないものがあつた。(矢南小)

迷カメラマン

佐野達介

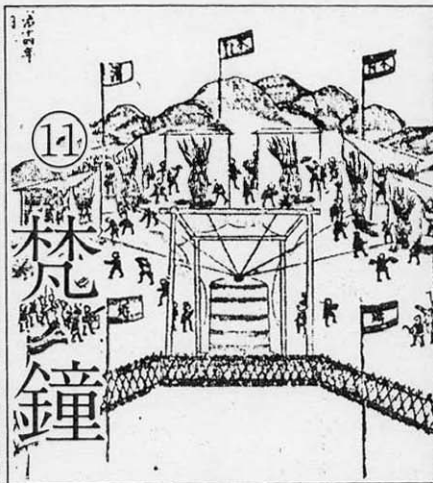
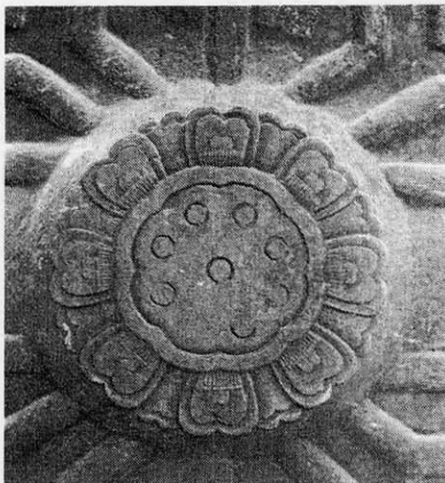
十月のある日。二年生のハードルの授業も進み、生徒の参考になればと思い立ち、校庭にビデオコーダーを持ち出した。機械と名のつくものには根柢から弱い。セツトするのに手間どった上に、今度はカメラの調整に一苦勞。

突然、S夫がカメラの前にうずくまり腹を押さえて苦しそうな表情をしている。いつも元氣なS夫なのに……一瞬、そう思った。が、ビデオの調整に頭はカンカン。いとも簡単に「保健室へ。」

あと二、三人で撮り終わる頃、養護の先生が呼びに来た。「どうしたS夫。」保健室に入ると、S夫は胸を押さえ、呼吸もたえだえて、いかにも苦しそうだ。タクシで病院へと向かうS夫を見送りながら、ビデオのことはかりに氣をとられていた自分が悔やまれた。

一時間ほどしてS夫は元氣になって帰ってきた。原因は、給食のイカ・エビのアレルギーから急性の発疹が気管支に出て、呼吸困難になったのだそうだ。

もつともっと生徒に目を向けなくてはと、反省しきりの一日であった。(東海中)



岡崎再見

▲竜海院



▲万徳寺
▼妙源寺

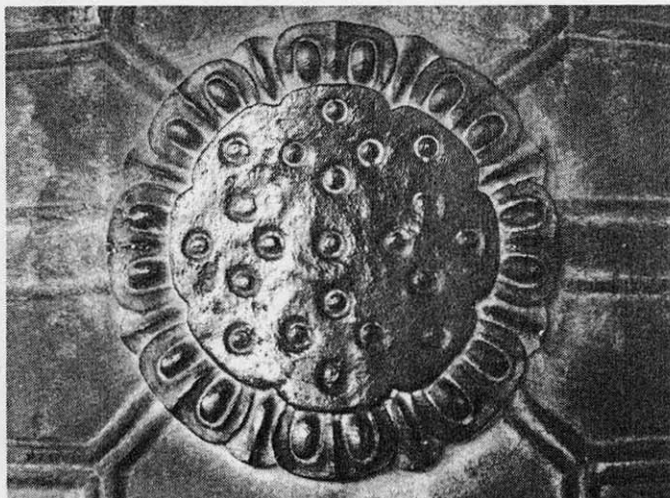
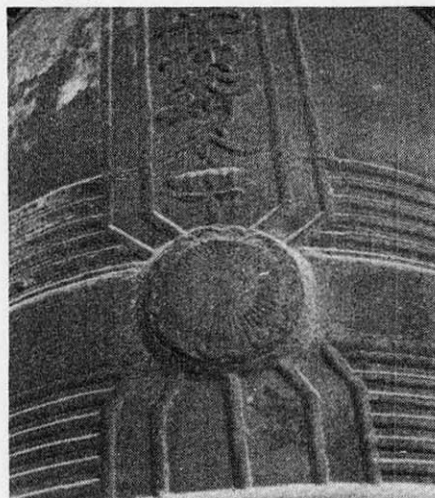


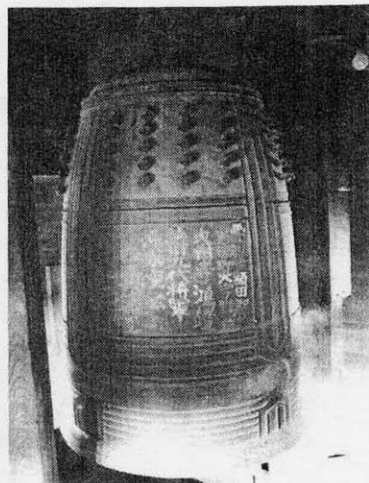
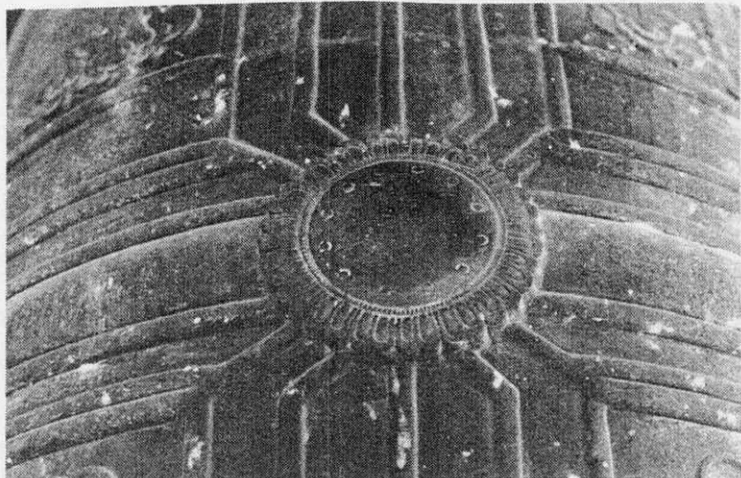
▲渭信寺

▼真福寺

大晦日の夜、百八つの除夜の鐘を耳にすると、身が引き締まるとともに、一抹の寂しさをも感ずる。
 いんいんと鳴りひびくその鐘の音は、万事の浮沈をどうすることもできぬ人間の宿命を伝える。
 祇園精舎の鐘の聲、 諸行無情のひびきあり
 平家物語の巻頭の詩文も、栄華を極めた平家一門の末路が、鐘の音に象徴されて哀れである。
 鐘は、古くより人々の歴史を刻んできたといえる。年の瀬を迎えて、今いちど梵鐘に目を向けるのも悪くはないからう。

ここにいくつかの寺の梵鐘を紹介するが、戦時中、その多くは供託に付され、残っていたのは数少ない。





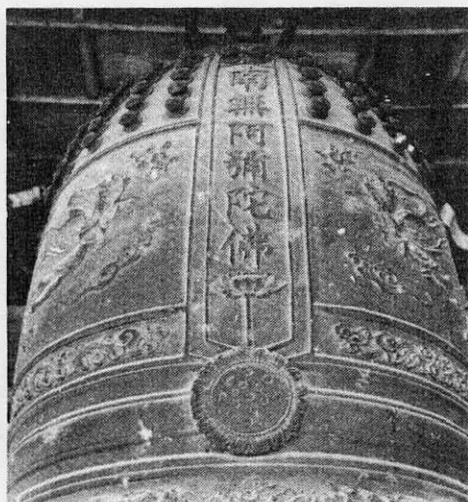
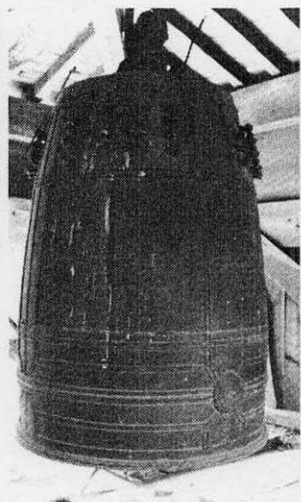
▲東別院

▼円福寺

▼法蔵寺

大樹寺▲

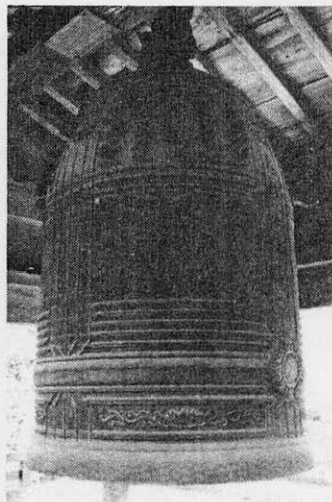
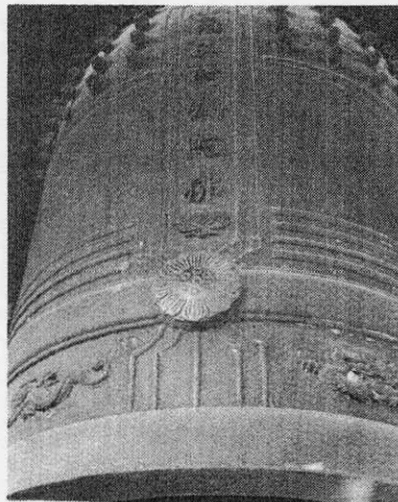
上宮寺▼



▼崇福寺

満性寺▼

明願寺▼



教育日々



文化祭

香山中 水谷淳一

「では、各クラスの提案内容を説明していただきます。まず三年生からお願いします。」

「一番のシャボン玉のコーナーでは、双子のもの、大きなものなど、もち網を利用したりして工夫したらと考えています。」

二番目の迷路は「……………」。

生徒議会は、どんどん進行していく。

今までの文化祭は、生徒の意見をとり入れた生徒の活動の場が少なかった。今年はささやかでも生徒に場を与え、企画運営になれさせたかった。

なにぶんにも教室数が少ない。便える場所は校庭だけ。しかも小学校と同じ日だ。そこで遊びのコーナーを充実しようという

ことになった。

私達としては、単なる猿まねでなく、そこにどこかアイディアのキラッと光る、より次元の高い遊びをしてほしいと願う。

最初にてきた提案の中には、スケートボード、ものまね大会、でんちようなどがまじっていた。それを半ば強引に説得し、意見を撤回させる。始めてのこと、生徒も何を考えてよいか迷っている。竹馬や迷路など創造の余地のある遊びが残ってくる。最終的に紙、針金などを使った製作コーナーが三つとなった。

えらそうなことを考え、大きなことを言いながら指導不足でたいしたことはできない。未消



化のまま時間切れになりそうだ。

しかしどんなものでも生徒が一生懸命に考えたことは大切にしよう。「でき上ったもので評価をせず、その過程を大切にしよう。去年より少しでも生徒活動の場が広がっただけでもいいじゃないか。」などと私自身の心をなぐさめる。

来年は全校生徒（といっても百名足らずだが）が一つのコーナーに集中して行動できるようなテーマを考えさせよう。

生徒一人一人が部分を分担し、それを集めると統一した大きな作品ができる。そんな内容で提案してみようかな、とも考える。たとえば「縄文時代の生活を再現しよう」というテーマでA班は石器、B班は土器、みんなて住居を、というように。

今、なすべきこと

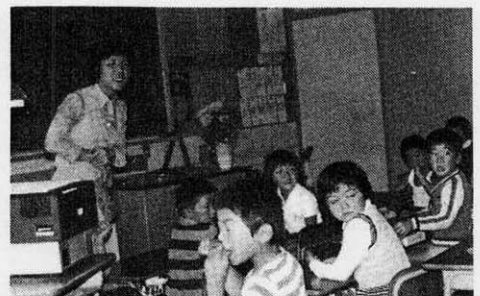
六ツ美南部小 鳥居陽子

「性教育とは、どんな教育ですか。」という問いに一言「むっかしいねえ。」と言われたある先生。性教育の必要性が叫ばれながらも学校教育の中に浸透されない現状、というよりあらゆる場面で性教育はなされているが、

それが意識され精選された形で学校教育の中におりこまれていない、といった方が適当かもしれない。

従来、学校で行われる性教育は高学年女子の初潮指導のみにとどまっていた。そして女子の指導の時の男子はたいして体育か遊びの時間となる。しかし、女子と同様にもうすでに性にめざめかけている男子の心を見逃してよいのだろうか。性教育の指導的な立場にある先生は、「性被害防止の話はたいして女子対象にされるが、男子にこそ必要。」と言われる。

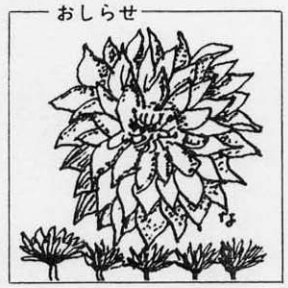
その時になって指導するのではなく発達段階に応じた性教育を小学生のうちから考えていく必要があると思う。日頃、子ども達が手にする学習雑誌にも何回となく男子のからだの変化、初潮とか精通現象に触れる記事が掲載されている。また週刊誌やテレビから否応なしに性用語、性知識を目や耳にする。性教育の反論として「眠っている子を起こすな。」と昔から言われるが、もうすでにめざめている子を放っておいてよいのだろうか。生半可な疑問だらけの知識よりもきちんとした学習の場で健全な形で指導していくのが現



代はどんどん流れていく。

本校でも三年程前から六年生男女を対象に年間三時間の計画で、男女のからだの変化、男女の生理、心の発達という主題で授業実践を試みてきた。その時ある男子が「今までには女子が体育を見学する時変な事を言っていたけれども言わない。」と発言した事が印象的である。

そして本年度から小学校南ブロックの十校で、保健主事と養護教諭合同で全学年を通しての性教育の研究に取り組む事になった。まず職員間の共通理解を求め、年間指導計画の立案、特活の中への位置づけと授業実践これからの課題は大きすぎる程大きい。



おしらせ

第六回教育文化賞二氏・二団体に決まる

授賞式記念講演会に陳舜臣氏

去る11月25日、本年度教育文化賞授賞式が岡信中央支店で挙行され、次の二氏と二団体に晴れの表彰状と副賞が、内田市長及び竜城RC（酒井茂会長）から贈られた。

【個人】▽安土屋二氏85才 市内六供町清水児童話と講演行脚による社会教育活動の実践▽古田忠久氏44才（河合中教諭）

ゲンジボタルの人工繁殖等生活環境保全活動の研究と実践。

【団体】▽中之郷おはやし保存会（代表石川保夫氏）

伝統芸能、チャラボコ太鼓・コンコロ太鼓・笛による「おはやし」の伝承保存▽現職教育理科部（代表 鈴木依治部長）

理科作品展をととした地域の自然科学的意識の高揚。

表彰式後、とき小説家陳舜

【寄贈刊物・資料等】

◇藤華創刊号 岡崎文化協会編
市内の美術・文化・芸能三部
一一二団体の会員綜合誌・A5判・一八四頁。

◇人間性豊かな子どももの育成・伸びよ子どもたち―指導のてびきNo.2―
羽根小学校編

臣氏の記念講演「旅におもっ」がもたれた。

十二月の研究発表表

▼東海中学校研究発表会

▽期日 12月5日（火）12時30分
▽主題 自己実現をめざす教育―マイタイムの活用▽内容 研究発表と質疑・マイタイム公開・講演「自己実現の教育」

▼姫路工大教授上田吉一氏

▽期日 12月12日（火）12時20分
▽できる学習指導の研究と実践―魅いる学習をめざして▽内容 研究発表・公開授業・教科別協議会。

▼矢作中学校研究発表会

▽期日 12月12日（火）12時20分
▽できる学習指導の研究と実践―魅いる学習をめざして▽内容 研究発表・公開授業・教科別協議会。

第15回学校放送教育賞受賞者

紹介（於11/10・第29回放送教育賞全国大会）▽日本放送教育協会賞 三島小・牧野伊佐夫教諭▽佳作 城北中・佐野旭教諭

長賞 三島小・牧野伊佐夫教諭▽佳作 城北中・佐野旭教諭

長賞 三島小・牧野伊佐夫教諭▽佳作 城北中・佐野旭教諭

昭和53年度秋季小中学校各種競技記録

第11回 岡崎市中学校新人総合体育大会成績

10月22日～11月5日

陸上競技個人記録

10月22日 岡崎公園グラウンド

種目	姓	順位		
		1位	2位	3位
陸上競技	男	矢作 葵	美川 山	美川 山
	女	東海 六ツ美	甲山 山	甲山 山
軟式庭球	男	矢作 河合	附属・東海	附属・東海
	女	河合 矢作	福岡・東海	福岡・東海
剣道	男	城北 竜海	福岡・附属	福岡・附属
	女	附属 甲山	矢作・六ツ美	矢作・六ツ美
バレーボール	男	矢作 葵	竜海・岩津	竜海・岩津
	女	福岡 南	城北・葵	城北・葵
卓球	男	東海 南	矢作・六ツ美	矢作・六ツ美
	女	東海 河合	南・城北	南・城北
体操競技	男	竜海 葵	甲山 山	甲山 山
	女	葵 南	矢作 山	矢作 山
ハンドボール	男	美川 六ツ美	城北・葵	城北・葵
	女	六ツ美 美川	岩津・葵	岩津・葵
水泳競技	男	矢作 甲山	城北 山	城北 山
	女	甲山 矢作	城北 山	城北 山
柔道	男	2年の部 1位美川2位竜海	1年の部 1位竜海2位美川	1年の部 1位竜海2位美川
	女	葵 附属	城北・竜海	城北・竜海
バスケット	男	葵 附属	城北・竜海	城北・竜海
	女	美川 岩津	城北・葵	城北・葵
ソフトボール	男	甲山 葵	城北・南	城北・南
	女	福岡 六ツ美	城北・東海	城北・東海

種目	男子			女子		
	氏名	校名	記録	氏名	校名	記録
100M	徳永 光彦	美川	12'2	榊原 伸子	甲山	13'5
200M	酒井 健次	矢作	25'2	久留 恵	六ツ美	28'7
800M	鳥居 昇	矢作	2'16'4	山本 龍子	六ツ美	大会新 2'33'9
1年1500M	鈴木 庸由	附属	5'01'8			
3000M	松本 久	甲山	大会新 9'51'7			
80MH				富田 久枝	東海	13'5
100MH	斉藤 和彦	美川	15'1			
400MR				東海		55'8
800MR	矢作		1'43'8			
走幅跳	渡辺 英二	甲山	5m47	野尻 早苗	福岡	4m60
走高跳	片岡 達広	葵	1m70	榊原 伸子	甲山	1m40
砲丸投	向坂 卓也	岩津	12m87	建部 光代	東海	10m69

小学校

11月3日 岡崎公園グラウンド

種目	男子			女子		
	氏名	校名	記録	氏名	校名	記録
100m	梶 顕二	広幡	13'1	福岡 嘉代	根石	14'3
1000m	竹川 邦彦	福岡	3'20'5			
60mH	柴原 富輝	緑丘	9'0	渡辺智恵子	常磐	10'0
400mR	広幡		56'0	根石		58'9
低学年400mR	連尺		61'8	六ツ名		64'8
走幅跳	鷹峰 英喜	連尺	4m60	角谷紅末子	根石	4m47
走高跳	花岡 昌浩	矢作北	1m28	小関 由美	梅園	1m26
ボール投	水野 賢一	連尺	大会新 73m20	鳥居 晶子	矢作西	55m66

第17回 小学校陸上競技大会

11月3日 岡崎公園グラウンド

種目	順位		
	1位	2位	3位
男子総合	広幡 連尺	緑 丘	緑 丘
女子総合	根石 六ツ名	緑 丘	緑 丘

柱より土呂にぬける街道を進む。台地の末端で右へ折れて路地に入ると、こんもりとした繁みにぶつかる。

文化財、大夫塚古墳の立札が小さく見える。

この地は、昔、男川の流れに突き出たところである。豪族が地方で勢力をもち、未だ太和朝廷が十分な力をもっていない頃、岡崎の地に六つの勢力があった。岩津、阿知租、明大寺、大西、丸山、小針、宇頭、西本郷、若松、甲山の六地域は、五〜七世

太夫塚古墳



点

所在地一若松町西ノ切

・カット

美川中 長坂正延

紀の大小いくつかの古墳があり、群をなしている。

その中で、ひととき目立つのが、この大夫塚である。五世紀の古墳で、径三十六メートル、高さ五・五メートルの円墳である。以前は、周囲に濠がほられていたと推定されているが、今その名残りは無い。埴輪の破片すら見つけることができない。大夫塚の主がどのような人か、大和朝廷とつながりがあるのか、どの地域まで支配していたのかなど、今のところ不明である。

この本を

- 今日を生きる 山田無文 ￥390 講談社現代新書
- わが世代・昭和13年生れ 河出書房新社編 ￥780 河出書房新社
- 取材学 加藤秀俊 ￥340 中公新書
- 知力の発達 波多野詠余夫・稲垣佳世子 ￥280 岩波書店
- 喜怒哀楽の人間学 伊藤 肇 ￥980 PHP研究所
- 夫と妻の老年学 水野 肇 ￥1,000 中央公論社
- ロンドンからの手紙 青木利夫 ￥820 朝日新聞社
- 西域をゆく 井上 靖・司馬遼太郎 ￥1,200 潮出版社
- 素直な戦士たち 城山三郎 ￥850 新潮社
- 雑草 鈴木弥一郎 雑草出版記念会

「おそろしい事をするもんだ。」「先生さまをなぐるなんて。」「きつく叱れば先生が悪い。わるが出れば学校は何をしておる。……孫の手をひきながら散歩にでるじいさん、ばあさんの会話の一コマ。除夜の鐘を聞くのもあとわずか、世評に動することなく斯道の確立こそ先決、よき年を迎えたいもの。教育万歳。」

シオシア

師走か。巷には「今年の○大ニュース」とやらが流れてくるようになるぞ。ボクの今年の三大ニュース、一つ、毎日快便快通下痢皆無だったこと、二つ、三十三回目の生誕記念日を無事迎えられたこと、そして「オアシス」の原稿に向かって、ウンウンうなるようになったことか。

アツカン（熱帯）がびつたりの季節になった。もつとも、胃の腑に入った酒がズーンとしみわたっていく、あの感じは酒呑みだけのものかもしれない。しかし、益をやり取りするうちに深まっていく連帯感、飲める、飲めないに関わりなく大事にしていきたいものである。

すたれたものが甦る——。急速な経済成長に目が眩み、あれもこれもと古いものがやたらと忘れられた。昨今、歌や遊びをはじめ、消えたもののいくつかが息を吹き返してきた。家を捨てた若者も帰りつつあるという。そのものよきはやっと目ざめたといえよう。日本の味はいつになっても生かしておきたいものだ。